

3月7日 全校朝会でのお話

差す陽も、吹く風も暖かくなりました。もう春ですね。

梅や桃がそれぞれの花を開き、桜もつぼみを次第に膨らませて、花を開くのをひっそりと待っている、そんな穏やかな日が続きます。

さて、日本から北西に8000キロほど先に、ウクライナという国があります。その国の首都キエフ。この町は「芸術の都」と言われ、政治・経済・文化・芸術の発信地であり、歴史的な建物も大切に残されたとても素敵な街です。

その街をはじめとして、ウクライナのいくつかの街が、今、多数の銃撃に脅かされているニュースが止めどなく流れてきています。

ウクライナの西隣にあるロシアと戦争状態にあるのです。

私たちは遠く離れたこの場所で、ウクライナにいる多くの人の無事を祈るしかなく、遣る瀬ない思いがします。

テレビの画面から流れる映像は、遠い国のお話のように見えますが、ロシアの西の隣はウクライナ、そしてそのロシアの東の隣は皆さんの住むこの日本なのです。隣の国と、その隣の国が戦争をしているのです。この戦争は決して他人事ではないのです。

この1年を振り返ると、この戦争が起こった、そして、新型コロナウイルスに脅かされた1年でした。後にこの1年は、歴史的な年と記録されるのでしょうか。そのような年に私たちは確かに生きています。

実際に、新型コロナウイルスの蔓延によって、皆さんの生活の中で、たくさん我慢を強いられたこともあったかと思います。でも、それは悪いことばかりではなく、それによって、新しい発見や試みがされたことは、知っておいた方がいいでしょう。

例えば、ここ3年、冬にあれだけ猛威を振るっていたインフルエンザは、ほとんど見られなくなりました。江南北小で今年、インフルエンザに罹った人はいません。風邪で欠席する人もこれまでより、ずっと少なくなっています。いつも欠かさずマスクをしていることもその大きな原因となっているのかもしれない。

それから、臨時休校や分散登校などをせざるを得なくなった経験から、タブレットの導入が進み、皆さん一人一人にタブレット端末が配られ、皆さんはオンラインで授業を受けることもできるようになってきています。これまでには考えられない速さで活用が進んでいます。

このように、困難や辛さの先に、図らずも必ずもたらされるものがあります。

今起きている戦争も、ウクライナの人たちにとって、後に何かしらの恩恵をもたらしてくれたらいいなど切に願っています。

さあ、この学年も残すは1ヶ月です。この学年のまとめをしっかりと、そして、元気に楽しく仲良く過ごしてください。